

頸城 笹倉温泉～火打山・高松山 山スキー

小暮

【日時】 2009年4月4日(土)～6日(月)

【メンバー】L小暮、浅井、佐貫

笹倉温泉から影火打コースを登って火打山に登るルートは長いコースだが、健脚向きには日帰りも可能だ。私も何度か頸城の地に足を運ぶうちいつかは行ってみたいと思っていたが、今回は休みを1日つけて3日間の日程で余裕をもっていく機会を得た。頸城のスキーではお約束のマリンドリーム能生でベニズワイガニとエビや干物を仕入れてから山に向かう。

笹倉温泉に断って車を止めさせていただき、かろうじて道路の両脇につながった雪を拾って歩く。つづら折れの道路からは雪面を辿れるようになる。本日はベースキャンプまでの短い行程なので、周囲の景色を確認しながらのんびりと登っていく。行く手からは、日帰りで焼山北面台地を滑降してきたパーティがいくつかやってくる。我々のように泊まりで入山する人は稀のようだ。アマナ平に着くころには、ポツポツを雨が降り出してきた。天気予報だと夕方までは持つかと思われたが思ったよりも早く天気が崩れてしまった。初日に高度をあげて、2日目に楽をするのか、3日目の高松山の取付きに近いところに泊まるか悩んでいたが、振り出した雨のおかげで後者に決定。結果的には水も沢から汲むことが出来て良い幕場であった。時間はやや早かったが、この山行のもうひとつの目的である海の幸をたっぷり堪能するべく、長い宴会へと突入していった。



2日目は、
今山行の

ハイライトである影火打コースを登る。まずはベースキャンプの先の急な斜面を登り焼山北面台地にでた。周囲はガスに包まれて視界が乏しい。焼山に向かってトレースはしっかり残されているが火打山方面には見当たらない。慎重にコンパスで確めて進路を決め、C.1330付近で賽の河原を渡る。賽の河原を横断するポイントをうまく探せるか心配だったが簡単に分かって



一安心。ガスも段々と晴れてきた。窪地に挟まれた台地をゆるやかに登り、胴抜キレット側から回り込む沢型を目指す。詳細なトポがあるので周囲の地形をよく見ながらルートを探しながら登っていると、後ろから2人連れのパーティが追いついてきた。今朝、笹倉温泉を出発したというのでかなりの健脚だ。道を先に譲り急斜面に向かってジグザグに登っていく。この付近が一番の急

斜面なので、5人一緒になってじわじわ登っていく。細い尾根に集約されるところで右側に尾根を乗り越すと山頂からゆるやかにつながる斜面に出た。文章で説明しづらいのだが、山頂までスキーを脱がずに登れる弱点を突いた影火打コースは見事としかいいようがない。振り返ればガスもすっかり晴れて焼岳が目の前に大きい。影火打直下をトラバースしてコルに出ると風が強かった。コルから頂上まではアイスバーンなのでアイゼンに履き替えてピークを往復する。長いコースを辿って、素晴らしい展望の山頂を踏むことができて大満足。

楽しみにしていたコルからの滑降は想像していた快適さは無く、日差しでグサグサになった雪に足をとられて滑りにくい。私と浅井さんが何度も転ぶなか、フリートレックの佐貫さんはショートターンが快適そうだ。先ほど苦労して登った急斜面もなんとか滑り降りることができる。二人組みは既に見事なターンのシュプールを残してとくに滑って行ってしまった。我々も重い雪に足をとられつつ、あっという間に雄大な景色の北面台地に降りBCへと戻ることができた。



3日目は北東尾根から高松山を往復する。



朝が早かったためか、雪面は完全なアイスバーンとなっていて急斜面をジグザグに登るのだが滑落が恐ろしい。シールは利かないのでエッジだけが頼り。テレマークの私はスキーアイゼンが無いので非常に緊張した。尾根状に出ると、焼山と火打山のパノラマが素晴らしい。高松山は主稜線から外れているためか絶好の展望だ。稜線の方が変わるc.1530付近からは尾根が細くなっており、滑落の危険があると帰路でもスキーが使えるように無いので、スキーをデポし

てアイゼンに履き替える。佐貫さんは靴擦れで調子が悪いのでここで待っているというので、浅井さんと二人でラッセルして山頂へと向かう。細いスノーリッジが適度な緊張感で気持ちよく登る。山

頂からは、昨日滑った影火打コースが良く眺められ、見事なルート取りに最初に滑った人は偉いと思った。

スキーデポしたところに戻り、雪が緩むのをまっから滑るがまだちょっと硬い。もう一度のんびりと景色を眺めて一休み。ここからの滑降は硬い雪面が圧雪したスキー場のようで滑り易く非常に快適だった。滑降できる距離が短いので、高松山はあまりスキー向きではないがとにかく眺めがよいので一度訪れてみる価値はあると思う。



ベースキャンプからは、重い荷物を背負ってのスキーとなる。ショートスキーの佐貫さんは平坦なところは板が滑らず大変そうだった。何度も背後の山を振り返りながら素晴らしかった3日間を振り返る。つづら折れのところはスピードが出すぎて危ないので注意しながら笹倉温泉へと降りていった。

【感想】

私はトマ名物のカニ山行を今回初めて経験したが、冷えたビールを飲みながら、豪華な海産物を二晩も雪山で食べることができ大満足であった！ こんな贅沢は他では味わえないだろう。焼山北面台地も私にとっては初めてだったが、なるほど山スキーの聖地と呼ばれるだけあって、スケールの雄大なすばらしい所だと感激した！

火打山に至る影火打ルートはルート取りがやや難しいが、今回のような往復だと滑りでルートを外す心配がないので、精神的には楽だった。山頂からの滑降では、重い新雪に足をとられてイマイチ快適には滑れなかったが、快晴のもと大展望が満喫できたのでよかった。最終日は高松山を往復したが、短いながらも結果的にはここが一番快適に滑れた。

天気にも恵まれ、山も食もたっぷり堪能できたすばらしい山行でした。風邪気味にもかかわらず、最後まで計画通り頑張ってくれた小暮さん・佐貫さん、どうもありがとうございました。(浅井)

何年振りかわからないくらい久々の焼山北面台地。考えてみればこのエリアでまともに山頂に立ったことがあるのは屋閼山くらいだったので、今回は火打のピークを踏めて本当に良かった。ドロエビが一皿しか手に入らなかったことは残念。

頸城は遠いが、こうして2泊の日程で来ると時間に余裕もあって宴会と山を共に十分楽しめることが分かったので、来シーズンもまたこのような機会を楽しみにしています。(佐貫)

【行程】

4/4 笹倉温泉(10:00)～アマナ平 BC(13:10)

4/5 BC(5:20)～賽の河原c.1340(7:00)～影火打と火打山のコル(11:00)～火打山(12:10/25)
～コル(12:50)～賽の河原(13:40)～BC(14:55)

4/6 BC(5:25)～北東尾根c.1530スキーデポ(7:30)～高松山(8:20)～デポ(8:50)～
BC(9:50/10:20)～笹倉温泉(11:40)

【地形図】湯川内、妙高山

火打山（影火打コース）・高松山 山スキー概念図

